農楽里 norari

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン

2026年秋号

Vol.61

Free



テーマ

進化する農業

つや姫
TSUYAHIME

やっぱり つや姫ね



「つや姫」は山形県が十年の歳月をかけて開発した自慢のお米です。
際立つ「白さ」「つや」「甘み」が特長です。
全国の皆様、是非お召し上がりください。
また、贈り物にもご利用ください。
今年も「つや姫」をどうぞよろしくお願いいたします。

山形「つや姫」「雪若丸」ブランド戦略推進本部　本部長
山形県知事　吉村美栄子

INDEX

テーマ
進化する農業

稲作今昔物語
稲作のあゆみを知る　白鷹町　4

ドローンでつなぐ農地の未来
上郷山間農地維持集落協定　飯豊町　6

効率と安全の両立を目指した水管理システムの構築
寒河江川土地改良区　寒河江市　8

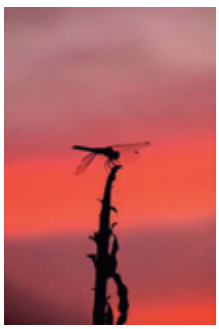
ラズベリーがつなぐ笑顔の輪
最上ラズベリー会　新庄市　10

豪雪地帯を生き抜く『北限のすだち』
あさひスダチ会　鶴岡市　12

人と地域を幸せにする香り
山形薔薇蒸留所　村山市　14

水土里ウォーク
カモとヘラブナの里　原崎沼　天童市　16

読者プレゼント　19



表紙
「夕暮れとんぼ」
（撮影場所：東根市）
第 33 回「やまがた農村フォトコンテスト」
学生の部　特選
山科　夢愛　さん

農楽里 norari

元気な農山漁村をつくっていきたい。農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい。
農楽里（のらり）は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する手づくりの情報誌です。

ｎｏｒａｒｉは、山形県ホームページからもご覧いただけます。（右記コードからアクセスできます。）





稲作今昔物語





鍬一本からトラクターへ 稲作のあゆみを知る

機械のない時代

現在の稲作ではトラクターや田植機、コンバインが当たり前に使われている。しかし、数十年前までは、人の手作業と工夫によって支えられていた。稲作の機械化が進んだことで農家の生活も劇的に変化してきた。

手作業から機械化への歩みの軌跡を辿ってみよう。

道具のあゆみをたどる

稲作に用いる道具は、人力や牛馬の力に頼った時代から、足踏み式や手回し式の道具の普及を経て、現在ではエンジンやモーターを動力とする農業機械へと発展してきた。

機械化が進む前の稲作では、各農家が自前の道具を所有し、それらは地元の大工や鍛冶職人に依頼して作られていた。このため、同じ用途の道具であっても、農家ごとの工夫や特徴が表れている。

稲作と農家の営み

かつて農家の生業の中心は稲作であり、一家総出で取り組む大仕事だった。しかし、米だけで生計を立てることは容易ではなく、わら細工や養蚕（ようさん）など、さまざまな副業によって暮らしを支えていた。

それでも当時の農家が稲作を続けたのは、主食としての需要が安定していたことに加え、稲わらも暮らしに欠かせない資源だったからである。しかし、時代とともに石油化学製品が普及すると、わら製品の需要は減少し、養蚕業も衰退した。こうして、かつて農家の暮らしを支えた副業やわら文化は、次第にその姿を消していった。



蓑（みの）
防水性能もあり、雨や雪の日に重宝された。



米俵（こめだわら）
1俵には60kgの米が入り、形に地域ごとの違いがあった。

分ける



ススロ棒

収穫した稲藁を叩き脱穀（稲からもみの分別）をする道具。



足踏み脱穀機（だっこく）

足の力で動かす脱穀機。稲穂を回転する歯に当てることで、もみを効率よく取り外す。



箕（み）

脱穀後のもみ殻を箕の中で揺らし、重さで不純物ともみを選別する。



唐箕（とうみ）

ハンドルを回すことで、道具の中で風が起こり、不純物ともみを選別する。

コンバイン

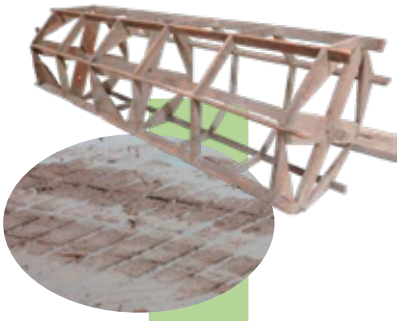


植える

手植え



田植枠（たうえわく）



回転させて田面に植え付け位置の目印を付け、その印に苗を手植する。
田植枠の間隔は、限られた面積からより多くの米がとれるように農家ごとの工夫がみられる。

田植機



耕す

四本鍬（しほんこ）



平鍬（ひらぐわ）



三本鍬（さんぼんこ）



鍬ごとに使い道があり、平鍬は田んぼの周囲の土手を塗り固める「畔塗り」に、三本鍬や四本鍬は土を細かくする時に使う。どれも重く、体への負担が大きかった。

馬耕鋤（ばこうすき）



牛馬に鋤を引かせて田を耕す道具。牛馬は一般の農家では所有していない場合が多く、限られた農家が所有する牛馬を借りていた。

トラクター

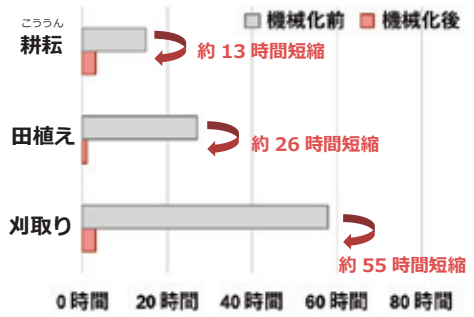


稲作の今と昔と未来

農業機械の導入によって作業時間は大幅に短縮され、かつて家族総出で行っていた田植えや収穫も、少数でこなせるようになった。これまでの農業技術の発展は、人の手足の働きを機械が代替することで進んできた。そしてこれからは、ＡＩが人の判断を支える時代へと移りつつある。道具の役割は、「力仕事」から「考える仕事」へ変わっているのである。

しかし、今も昔も未来も、稲作の道具がその時代の知恵や技術を取り込みながら進化していくことに変わりはないだろう。

機械化に伴う作業短縮時間(1,000㎡あたり)



※出典　農林水産省　農産物生産費統計

昔の農業をもっと知りたい！　資料提供　白鷹町歴史民俗資料館　あゆみしる　Tel:0238-88-7160



ドローンでつなぐ農地の未来
～上郷山間農地維持集落協定～

農地を守っていくために

飯豊町の北西部にある上郷（かみごう）地区では、中山間直接支払交付金制度に取り組んでおり、20代から60代の5人のメンバーで、農地を維持・管理していくための、上郷山間農地維持集落協定を締結している。主に農地の草刈りや水路の土砂撤去など、地域の農地を守るための活動を行っている。

スマート農業を活用する

害虫や病気による被害を防ぐために農薬を散布する「防除作業」がある。上郷地区では約40haの農地を、従来は動力散布機を背負って人力で行っていたが、令和4年からドローンを活用した防除に取り組んでいる。きっかけは、農業者の高齢化や担い手不足により、これまでのやり方では作業が間に合わなくなってきたためだ。

ドローンによる防除は、従来のやり方に比べ、約40haあたりの作業日数が10日間から2日間へと大きく削減されたほか、体力的な負担も大幅に軽減することができる。



傾斜のある上郷地区の農地

中山間地域等直接支払交付金制度について

農地の傾斜が大きく、生産条件が不利な地域で、農地を維持・管理していくための取り決め（協定）を締結した組織に対して交付金を支給する制度。

スマート農業加算について

中山間地域等直接支払交付金にはスマート農業加算という加算措置がある。スマート農業で作業の省力化・効率化を図る場合に交付額を加算する。

※設定した目標を達成する必要がある。

ドローンでの防除であれば、リース代や本体購入代、燃料代等に活用することができる。

ドローンの導入について教えてください！

Q.ドローンを導入して良かったことは。

A.ラジコンヘリ防除を委託したこともありましたが、予約が混み合うと適期からずれてしまいました。ドローンを導入したことで必要なタイミングに防除することができるようになりました。

Q.ドローンの操縦に免許は必要ですか。

A.100ｇ以上のドローン操縦では免許が必要です。免許の更新は２年毎にあります。

Q.農薬は従来のものを使用できますか。

A.使えるものが限られており、ドローン散布にあった農薬を選ぶ必要があります。

操縦に慣れれば自在に動かすことができます。



ドローンの操作を担当している
佐原（さわら）さん（左）・舟山（ふなやま）さん（右）

上郷地区では若手２名が免許を取得している。

上郷地区で使用しているドローン



幅 1,958mm

高さ 553mm

農薬は８Ｌまで入れることができる。

一つのバッテリーで約 10 分運転可能。0.4ha 防除できる。

ドローンにルートを設定することで、自動で設定した範囲に農薬の散布をすることもできる。

30km/h の速度で防除できる。

住み続けられる地域に



上郷山間農地維持集落協定
代表　佐原源一郎（さわらげんいちろう）さん

中山間地域の農地では、畦畔や法面の草刈り、水路の維持管理の作業負担が大きく、年々離農が進んでいます。このままでは中山間地域の農地の引き受け手はいなくなり、人口減少と共に地域は消滅してしまいます。そのような事にならないように農地を守らなければなりません。

近年、上郷地区では若い世代の影響もあり、ドローン防除に取り組みはじめました。このような取り組みを通して、住み続けられる地域づくりに貢献していきたいです。



山々に囲まれた上郷地区

～ 農地の維持管理活動 ～



支障木の伐採



草刈り

遠隔操作で進める



農業用水管理の省力化

水の管理人「土地改良区」

西村山を中心とする寒河江川の扇状地に展開する約3千haの農地を潤す農業用水を管理するのが、「寒河江川土地改良区」だ。

土地改良区では、7名の職員が、高松堰頭首工や昭和堰頭首工をはじめ、約47kmの用排水路やため池の日々の維持管理や点検を行っている。

こうした中、農業用水の水位確認や、用水量の調整のためのゲート操作などは職員が毎日見回りしなければならず、省力化が課題となっていた。さらに、豪雨時には、職員が危険な現場に向かう必要があり、安全確保も課題となっていた。

水管理システム

そこで、課題を解決するため、寒河江川土地改良区では、水管理システムを活用した水管理を令和8年度から行っている。

水管理システムとは、農業用水の監視・操作を行うシステムのことを言う。現地に向かわずとも土地改良区内の中央管理所（上写真）で様々施設の状況や水位の監視、遠隔操作が可能なことが特徴だ。

現在、水管理システムの改修や運用の見直しを進めている寒河江川土地改良区の佐藤管理課長に話を伺った。



ソーラーパネルと通信設備により
遠隔操作が可能な水量調整ゲート



システムによる効果

これまで職員が現地に向かい操作を行っていた施設に監視カメラや水位計、遠隔操作機能を設置しました。数多くの施設の監視やゲート操作などが可能となり、現地作業などの大幅な省力化と職員の安全確保が可能となりました。

こうした取り組みが評価され、令和７年度にはインフラメンテナンス大賞の優秀賞を受賞することができました。



今後に向けて

現在は、緊急時にすぐ現地へ行けないため池や、重要な揚水機場などの施設の遠隔監視なども検討を進めています。

今後も、限られた人員でも対応可能なより良いシステムを構築し、農地へ確実に水を届け、地域の農業を基盤から支える土地改良区の役割を果たしていきたいです。

寒河江川土地改良区

佐藤（さとう） 裕斗（ひろと）　管理課長

☆インフラメンテナンス大賞とは

農林水産省などが主催する日本国内におけるインフラのメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰するもの。

平成 28 年度より実施されている。

第９回インフラメンテナンス大賞授賞式の様子→



ラズベリーがつなぐ笑顔の輪
最上ラズベリー会



左から中村さん、リンちゃん、佐藤さん、齋藤さん

最上ラズベリー会

夏は暑く冬は雪深い盆地の気候を持つ最上地域を中心に、ラズベリーが栽培されていることをご存じだろうか。県の産地研究室による栽培セミナーの開催や、ほ場整備を契機とした栽培実証も行われている。

そんなラズベリーの栽培や普及に挑む「最上ラズベリー会」。「自分たちの手で生産から販売までやりたい」という熱い想いを持つ人たちが集まり、２０１２年に結成された。現在は、現役生産者に加え、これまで栽培に携わってきた関係者も含めた11戸で活動している。

ラズベリーは大型機械が不要で、基本的に苗や最低限の資材があれば始められる手軽さがある。そのため、女性やお年寄りをはじめ誰でも比較的取り組みやすいのが大きな魅力だ。

ラズベリーが届ける温かい想い

「環境にやさしく食べて安全、ラズベリーでみんなと笑顔に」がこの会のコンセプトだ。最上ラズベリー会が生産するラズベリーは、化学肥料や農薬を一切使わずに育てられている。そのため環境にやさしく、安心して食べられるのだ。

化学肥料や農薬に頼らない栽培には通常に比べ多くの手間を要するが、生産者のみなさんは、それでも「ラズベリーでみんな（生産者・消費者・販売者等のラズベリーに関わった全ての人）と笑顔に」をモットーに生産を続けている。

ラズベリーってどんな果物？

ラズベリーは主にヨーロッパや北米などを中心に栽培されており、冬の寒さに非常に強いのが特徴。国内でも雪深い最上地域の気候や環境を生かした栽培が行われている。

色も形も美しく、甘酸っぱくておいしい果実には、「ラズベリーケトン・ポリフェノール・ビタミンC・ビタミンE・食物繊維」など、栄養が豊富に含まれている。



ラズベリーをまんなかに人と人がつながる

生産・販売

夏と秋の二季なりの品種を生産しており、7月から 10 月末まで毎日収穫作業を行っている。

ラズベリーは非常にデリケートな果物であるため、日々の丁寧な管理が欠かせない。

収穫した果実は主に首都圏へ出荷しており、主に洋菓子店やレストランで使われている。



高校生とのコラボ

新庄神室産業高等学校の生徒たちは、最上ラズベリー会のラズベリーを活用した農産加工を学習し、お菓子やジャムなどを製造している。

また、生徒を講師に迎えたクッキング教室など、地域での交流も行っている。



摘み取り体験

地元の学生の総合学習や、行政からの体験受け入れなどを行っている。（不定期）





家庭応援

地元の家庭教育応援・ボランティア団体「アベルんち」と収穫や畑作業など体験の場を通じて、つながる機会をつくる。

ラズベリー里親制度

ラズベリーの苗の鉢植えを一般の方に貸し出し、代わりに育ててもらう仕組み。「食べるファン」だけでなく「育てるファン」も増やす！

生産者拡大に向けて、現在、最上ラズベリー会が力を入れている取り組みだ。

ラズベリーが結ぶ、人と地域のつながり

最上ラズベリー会が一番大切にしているのは、人や地域とのつながりです。
生産者とお客様はもちろん、地元の学生さんとのお菓子作りや販売、そして遠く県外から足を運んでくれる方々との収穫体験など、ラズベリーをきっかけに人と人がつながります。
普段はあまり触れることがない珍しい果物だからこそ、人を惹きつける魅力がラズベリーにはあります。



会長　齋藤優子さん

最上ラズベリー会

販売・イベント情報はこちらから

Instagram ➥

Facebook ➥

豪雪地帯を生き抜く「北限のすだち」



雪国で栽培されるすだちとは

冬には一面の雪景色となり、日本海からの強風により地吹雪に見舞われる庄内地域。そんな厳しい雪国の環境下で柑橘類のすだちが栽培されている。

山形県では、２０１０年に「地球温暖化に対応した農林水産研究開発ビジョン」を策定、このビジョンに基づき、庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室で、複数の柑橘類等の試験栽培を実施している。その中で、すだちは庄内地域に適応性が高いと評価され、地元農家が２０１７年から栽培を始めた。

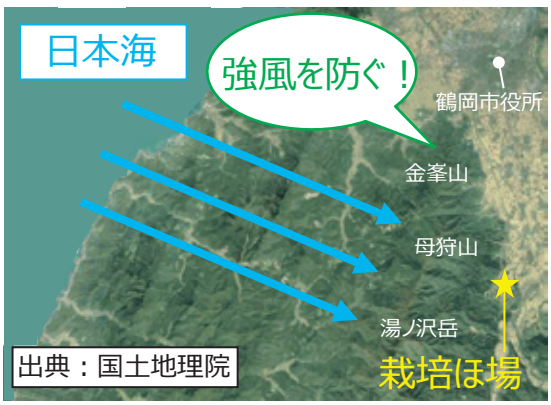
庄内総合支庁では２０１６年から、全国のすだち産地の中で最も北に位置する庄内地域で取れる「北限のすだち」としてＰＲし、生産拡大と利用促進に向けた事業を進めている。現在は鶴岡市、酒田市、三川町、遊佐町の４市町で計17人が生産している。



北限のすだち

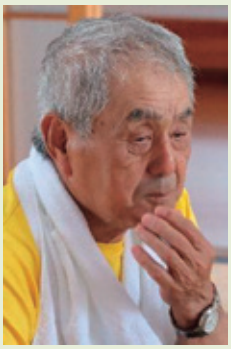
環境を活かした栽培と越冬対策

鶴岡市朝日地区の「あさひスダチ会」は、北限のすだちの栽培に先駆的に取り組んできたグループである。庄内地域ですだちを栽培するにあたっては、特に幼木や若木において、冬の冷たい風から樹体を守り、越冬させるための対策が必要である。鶴岡市朝日地区においても同様に越冬対策は欠かせないが、山間に位置することから日本海からの強風の影響を受けにくい。また、厳冬期には２ｍを超える積雪により樹木全体が雪に覆われ、寒風から守られるため、樹体周辺の温度が極端に低下しにくい。そのため、「あさひスダチ会」では適切な越冬対策とこうした地理的条件を生かしながら、すだち栽培を続けている。今回はその「あさひスダチ会」の方々から話を伺った。



すだち栽培のきっかけ

・きっかけは、2017 年に参加した庄内地域のぶどう農家が集まる会の懇親会で、産地研究室の職員からすだちの話を聞いたのが始まりです。
・そこから間もなくして苗を 20 本注文して、4 人で栽培を開始しました。この 4 人がのちの「あさひスダチ会」のメンバーです。
・当時は、軽い気持ちで始めたすだち栽培が、「北限のすだち」として庄内地域の新たな特産品として注目されていることについて、栽培当初は考えもしなかったため、とても驚いています。



あさひスダチ会
佐藤（さとう） 勝（まさる）さん



あさひスダチ会
伊藤（いとう） 三郎（さぶろう）さん

栽培をする上での苦労

・初めはすだちに関する知識がまったくなかったため、本当に育てられるか、しっかりと越冬できるかなどの不安が多くありましたが、年々経験を積み重ね、収穫量も増え、今ではすだち農家として立派にすだちを育てられるようになりました。また、すだちを含めた果樹を栽培するにあたり、草刈りや水路清掃などの地域の共同活動には、多面的機能支払交付金を活用しており、地域農業を守る意味でも大変助かっています。
・現在の苦労としては、年々すだちの樹木が大きくなっていることから、越冬させるための保護囲いの設置で行う、支え木の固定や結び付ける作業で、かなり骨が折れることです。
・すだち栽培については今後も続け、次世代へ継承していきたいと思っています。



越冬中のすだちの木

北限のすだちのおすすめの食べ方

・香りがよく、すがすがしい酸味を感じられることから、サンマや肉などに絞って食べるのがおすすめです。他にも焼酎などのお酒に絞って飲んだり、うどんなどの薬味にして食べたりするのもおすすめです。



すだち



すだちを使った肉料理

北限のすだちを使ったスイーツ

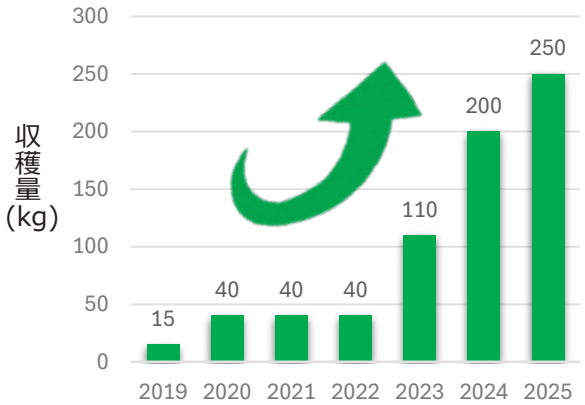
加工食品の商品開発・製造販売を行う「野菜みらい計画」により、地元で取れた生産品に価値を見出ししたいとの想いから、北限のすだちと庄内のブランド米であるはえぬきを使用した「米粉とすだちのパウンドケーキ」が開発された。

本商品は、すだち特有のすがすがしい香りと豊かな酸味を、米粉のしっとりとしたパウンドケーキで楽しめる逸品となっている。また、2026 年 7 月 9 日より鶴岡市のふるさと納税返礼品として採用され大きな注目を集めており、返礼品のほか鶴岡市の産直あさひ・グーや JA 産直もんとあ～るでも販売を行っている。



「米粉とすだちのパウンドケーキ」

あさひスダチ会のすだち収穫量



☆北限のすだちの最新状況については、Instagram をチェック！

野菜みらい計画

あさひスダチ会
佐藤勝さん

人と地域を幸せにする香り

山形薔薇蒸留所

東沢バラ公園を象徴とする「バラのまち」として知られている村山市で、新たな産業の創出に挑戦する人がいる。

山形薔薇（ばら）蒸留所の佐藤洋介さんは、もともと農林水産省の職員であり、村山市政策推進課長として出向した経歴を持つ。着任時、村山市はバラのまちとして知られていたものの、市内で生産されたバラの土産品や特産品は決して多くなかった。

そこで佐藤さんは、村山市がオリンピックのホストタウンとして築いたブルガリアとの交流を生かし、世界最高峰の香りを誇るとされるブルガリア産ダマスクローズに着目した。苗を輸入し、市内で試験栽培を始めるとともに、栽培、蒸留、商品開発を一貫して行うプロジェクトに携わり、新たな特産品づくりと地域産業の創出に挑戦した。

その後、出向期間が終了し、農林水産省へ戻るものの、地域農業のおもしろさを忘れられず、農林水産省を退職、令和3年に山形薔薇蒸留所を創設した。現在は、村山市産ダマスクローズを使った商品の製造・販売を通じて、バラの魅力を発信している。



バラのまちの新たな産業

佐藤さんたちは、村山市内の合わせて約 1ha の農地でダマスクローズを露地栽培している。

バラは一度植えると約 20 年もつ。また、年間のおおまかな作業は、剪定、除草、収穫、冬前に枝を束ねる作業などで、それほど手間がかかる植物ではないという。そのため佐藤さんは、バラは栽培面積を広げやすく、遊休農地の活用にもつながる可能性があると感じている。

ただ、天候の影響などにより収穫量が少なくなる年もあるため、日々栽培技術の向上に取り組んでいる。



山形薔薇蒸留所　佐藤さん

毎年5月末から6月上旬にバラの摘み取り＆蒸留体験を開催しています。
来年も開催予定なので、ぜひ Instagram をご覧ください♪



希少なローズオイル ☞

山形薔薇蒸留所では、農薬を使わずに栽培したバラを使用し、ルームフレグランスなどに使われるローズウォーターやオイルなどを作っている。特に、ローズオイルはとても希少であり、1ml 作るのに 3~5kg もの花が必要となる。



さわやかなバラの香りのローズウォーター ☞

ダマスクローズの香りに包まれて…

ダマスクローズの歴史は古く、古代エジプトのクレオパトラをも魅了したといわれている。原産地はイラン周辺といわれ、オスマン帝国を経てヨーロッパへ広まっていったとされる。

佐藤さんたちは、５月から６月にかけて咲いた花を早朝に摘み取り、その日のうちに蒸留する。収穫の時期には、農場全体がバラの良い香りに包まれ、全身からもバラの香りがするそう。



山形薔薇蒸留所
-YAMAGATA Rose Distillery-

活動の詳細は Instagram まで ☞

Instagram
@ROSE.YMGT

ホームページ

カモとヘラブナの里

原崎沼（ばらざきぬま）



水土里ウオーク

歴史と自然が共生するため池

原崎沼は、天童市北東部の山口地区内に位置する、貯水量13万tのため池である。1647年、山形藩主松平直基（まつだいらなおもと）が安定的に水を確保するため、もともとあった自然沼を拡大整備したことが始まりである。その後、幾度も改修・拡張され、1842年以降に現在の姿となった。近年は、平成3年に全面改修、令和2年に耐震対策工事を実施し、今なお15haの農地へ水を供給している。

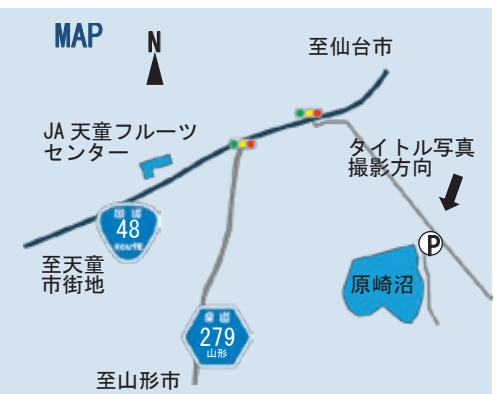
原崎沼は、カモの生息地としても有名で、秋から冬にかけて、マガモやコガモなど10種類以上が越冬のため飛来する。過去には14万羽以上確認されたこともある。また、昭和50年頃まで張網（はりあみ）による鴨猟が行われていた歴史もあり、学術的な価値から、沼自体が市の天然記念物に指定されている。近年は、ヘラブナ釣りの名所として親しまれているほか、周辺の散策道では、桜やアジサイ、紅葉など四季折々の風景が楽しめる場所にもなっている。

この環境は、「原崎部落会（カモの生息地の保全）」「原崎沼愛護会（ヘラブナの保全）」「原崎沼を愛する会（散策道の整備）」「山口開田耕地整理組合（ため池の整備）」の地元4団体が役割を分担して守ってきた。さらに、昨年からは、新たに「原崎網張の里の会」を結成。多面的機能支払交付金を活用し、増殖している蓮の除去作業に挑戦している。



蓮の葉の除去作業

かつて蓮はなかったが、上流の池から流れてきて繁殖した。冬になると、葉などの地上部が枯れ、ため池の底に堆積し、水質を悪化させるため、対策に乗り出した。



ガイド▶▶▶

① ヘラブナ釣り

原崎沼愛護会が稚魚放流などのヘラブナ保全活動をしており、3月～11月まで無料で釣りが楽しめる。堤体は、釣り人が座りやすい構造になっている。





② 水車

沼に放流したヘラブナが窒息しないよう水中に酸素を供給するほか、冬期間、カモが飛来できるよう水面の凍結を防ぐため、運転している。

③ 散策道

原崎沼の周辺には、散策道があり、植樹された桜やアジサイ等を楽しむことができる。沼の上流には別の池があり、そこではヘイケボタルも見られるとのこと。



寄り道

およそ50年前まで続けられていた鴨猟。
当時を知る伊藤栄作さんに教えていただいた。

※資料は「伊藤栄作さんの鴨猟談義」より抜粋



▲カモ網と栄作さんのおじいさん

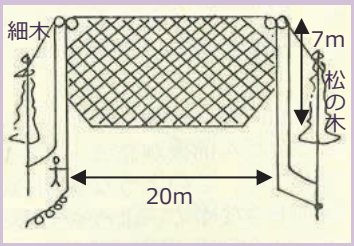


図1:張網の仕方

張網による鴨猟

原崎沼では、2本の松の木に細木を結わえつけ、図1のように網を張り、餌を求めて夕方に飛び立ち朝方に帰ってくるカモの習性を利用した猟を行っていた。網は各家で、1か月半かけて、1枚編み上げた。

狩場にしていた山を「網張山」と呼び、10数名で10数か所ある張場を回り、夕方と明け方の2回、猟を行った。

過酷な氷割

鴨猟で一番過酷な作業は、早朝からの氷割である。今は、水車を運転することで氷が張らないようにしているが、当時は、当番の3人が1つの舟に立って乗り、舟を横に揺らしながら進むことで、ため池の氷を割っていた。カモが餌場からため池に帰ってくる前に終えなければならず、暗い中の寒くて辛い作業だったそうだ。

カモを大切にしてきた心

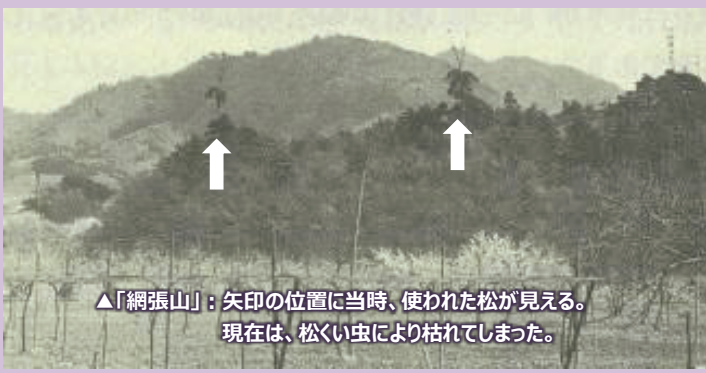
山口地区では、猟銃の使用禁止だけでなく、冬のお祭りでの花火すら禁止するほど、カモを大事にしてきた。しかし、戦後、進駐軍のアメリカ兵による猟銃の鴨猟が行われたことで銃声に驚き、原崎沼からカモがいなくなってしまった。これではいけないと、伊藤さんのおじいさんの世代の方々が神町駐屯地の大佐に直接嘆願し、取り締まってもらったそうだ。今なお、原崎沼では猟銃の使用が禁止されており、カモの憩いの場として大事に守られている。



いとう えいさく
伊藤栄作さん



▲氷割のイメージ図



▲「網張山」：矢印の位置に当時、使われた松が見える。
現在は、松くい虫により枯れてしまった。

やまがたの 棚田 スタンプラリー 2026

スタンプラリーに参加して
棚田地域の素敵な賞品を当てよう！

7/1（水）▶11/30（月）

５棚田以上を巡って、当たる
おこめ賞（２０名様）
「やまがたの棚田米」５ kg

９棚田以上を巡って、当たる
棚田げんき賞（１０名様）
棚田地域の特産品￥5,000 相当の品

棚田完全制覇！もれなくもらえる
コンプリート賞
プレゼント内容は期間中に公開予定！

棚田の写真を投稿して当たる
フォトジェニック賞（５名様）
棚田地域の特産品等¥3,000 相当の品

※応募いただいた写真は、今後の棚田振興の為に活用させていただきますので、写真の使用にご了解いただける方に限ります



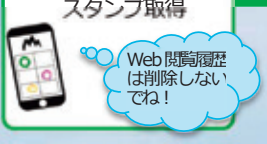
スタンプラリーの参加方法

スマホで棚田スタンプラリー特設サイトをチェック！（県 HP より）

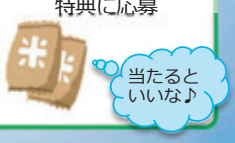
棚田へGO！



現地でサイトを開きスタンプ取得



スタンプがたまったら特典に応募



フォトジェニック賞
#やまがたの棚田スタンプラリー2026 で Instagram に投稿しよう



●棚田を巡る場合は、農業者や地域住民の通行等の支障とならないようご配慮願います。

やまがたの棚田スタンプラリー やまがたの棚田に関する HP にいますぐアクセス！

山形県農林水産部農村計画課　中山間・棚田振興担当 TEL 023-630-2495 FAX 023-630-2509

読 者 プレゼント

本誌 14～15 ページで紹介した山形薔薇蒸留所で作られた国産ローズウォーターアロマスプレーを３名様にプレゼント。

ご応募は、下のアンケート回答フォームから回答いただくか、応募はがきに記入してお送りください（官製はがき可）。本ページは、山形県ホームページからも印刷できます。

アンケートの回答フォームはこちら

※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。
※ご応募によって得られたアンケートの情報は、個人情報を含まない形で誌面への公表等に使用させていただく場合があります。
※プレゼントの応募締切は、2026 年 12 月 31 日です。

山形県ホームページから norari のバックナンバーをご覧いただけます。
右記コードからアクセスしてください。

山形薔薇蒸留所
ローズウォーターアロマスプレー

３名様



※写真はイメージです。
プレゼントと写真のデザインが異なる場合がございますのでご了承ください。

地域活動情報をお寄せください。

85円切手をお貼り下さい

〒990－8570
山形市松波2-8-1
山形県 農林水産部 農村計画課
norari 事務局 行

お名前

ご住所 〒 -

お電話番号

読者プレゼント希望欄

□ プレゼント希望の場合は、「レ」を付けてください。
応募締切は、2026年12月31日（消印有効）です。

アンケートにご協力ください

Q１ 本誌の内容はいかがですか？
□ おもしろい □ 普通 □ つまらない

Q２ 皆さんの活動や産品で本誌に掲載してみたいものがありましたらご記入ください。

Q３ 本誌に関するご意見をご記入ください。

のらり親父のつぶやき OT

『同世代』

高校の同級生３人で久々に夜の街へ。
３人で高校時代の話に花を咲かせていると、隣のテーブルで飲んでいた人達が声をかけてきた。私たちと同年代だという。
同じ時代を過ごしたということで、オイルショック、あさま山荘事件、山口百恵、長嶋茂雄の引退まで、昔話で大いに盛り上がった。
ちょっとひと息付いて、隣のテーブルの人が言った。
「私たち生まれた場所も違うし、高校も違うけど、同じ時代を同じ事を考えて過ごしていたんですね。」
みんな「うんうん」と頷く中、私の友達が言った。

「みんなもやっぱりいやらしいこと考えていたんだ。」



冬号は１月下旬発行予定！

発行 ｎｏｒａｒｉ編集委員会
〒990-8570 山形市松波 2-8-1
山形県 農林水産部 農村計画課
「ｎｏｒａｒｉ事務局」Tel 023-630-3077
協力 山形県農村振興技術連盟
山形県土地改良事業団体連合会

norari
2026年秋号
2026年10月16日発行
発行／ norari 編集委員会　〒990-8570 山形市松波2-8-1 山形県農村計画課「norari 事務局」 TEL 023-630-3077

地区の未来を考える　明治地区（山形市）







明治地区は山形市の北西部に位置し、山形盆地のほぼ中央を流れる須川に、白川（馬見ヶ崎川）と立谷川が合流する場所です。山形市山寺から西川町間沢を結ぶ「さくらんぼサイクリングロード」が地区内を通り、西に「月山」、「朝日連峰」、「葉山」、東に「蔵王」を一望しながらサイクリングを楽しむことができます。

令和7年2月に開催した地域づくり講演会をきっかけに立ち上げた「明治地区の未来を考える会」が発起人となり、地域住民が一堂に会して持続可能な地域づくりについて話し合う、ワークショップに取り組んでいます。1回目のワークショップでは、数班に分かれて現場を歩き、気づいたことを点検マップにまとめました。2回目のワークショップでは、明るく元気で住みやすい明治地区の実現に向け、前向きな提案を出し合います。この取組みでまとまった成果は、今後の明治地区の地域づくりに活かしていく予定です。

元気な農村（むら）づくり総合支援事業は、地域が主体となって取り組む地域づくりを応援するものです。地域で実施する話合いや地域での活動を進めたいが、誰に相談したらよいかわからない。悩める市町村の担当者や地域の皆さん、そんな時は下記の窓口にお気軽に相談してください。







「元気な農村（むら）づくり総合支援事業」は、地域づくりを応援します！

お問い合わせ先　村山総合支庁 農村計画課 TEL 023-621-8389　最上総合支庁 農村計画課 TEL 0233-29-1339
置賜総合支庁 農村計画課 TEL 0238-26-6056　庄内総合支庁 農村計画課 TEL 0235-66-5549
県庁農村計画課 農村づくり担当　TEL 023-630-2948

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。